

令和5年度評価会議 議事録（要旨）

日時：令和6年3月26日(火) 14:00～16:00

場所：阿南商工会議所・地域産業開発室

出席者：委員3名 石畑、篠原、坂本、藤田（欠席）

事務局5名 清原、藤井、沢田、藤倉、芝山

事務局	「令和5年度DMO四国の右下観光局評価会議」を開会。
理事長	○開会あいさつ（清原理事長） ・DMO登録から4年間の取組の振り返り ・観光地域づくり法人への登録・更新について ・「多様な関係者の合意形成」の仕組みづくり ・「KPIの設定」・「PDCAサイクル」の確立 ・多様な関係者と「戦略を共有」する仕組みづくり ・地域一体となった「一元的な情報発信・プロモーション」 ・安定的な運転資金の確保 加えて、DMOの機能強化に向けて各種データや明確なコンセプトに基づいた「観光地戦略」の策定 ・CMO,CFOに求める資質の明確化などの議論が進められていること ・(令和5年度)事業の柱となった“インバウンド地方誘客における観光コンテンツの造成事業”（観光庁補助事業）である、“祭り・浄瑠璃サミット”及び“離島を中心とした四国の右下観光局サステイナブルツアー”について報告
事務局	○評価委員の紹介 ○事務局職員の紹介 ○評価会議の趣旨説明 ○配布資料に基づき説明（資料①事務局・藤井説明、資料②事務局・沢田説明） ・観光局の組織・運営体制について <資料①> ・R4年度の取組実績、KPI達成状況について <資料②> ・事業報告 （1）着地型旅行商品の企画開発 （2）教育旅行（修学旅行・宿泊学習）・体験型学習旅行の誘致促進 （3）地域の食や特産品を活用した誘客促進 （4）観光客の受入環境整備（外国人旅行者の受入環境・観光産業

<p>評価委員</p>	<p>の人材育成支援) (5) 情報発信戦略の強化</p>
<p>評価委員①</p>	<p>○委員による質問・評価・検証</p> <p>情報発信の手段、観光客の受入体制も工夫されている。 また、コンテンツにも魅力がある。 質問だが、台湾の民泊について。どのようなルートから集客ができたのか？</p>
<p>事務局</p>	<p>台湾の民泊については 観光協会経由で予約を頂いた。(学校交流)</p>
<p>評価委員②</p>	<p>エリア内の景観や文化を集客目的だけで、アピールするだけでなく、同時に保護をするという事も重要である。そのような意味で、SDGs への取組を元にした、コンテンツの造成を更に推し進めていくことを望む。</p>
<p>事務局</p>	<p>それらのコンテンツ造成には引き続き取り組むのと同時に、地域を持続性という視点でも、捉えられる、説明できるようなエリア内のガイドの育成と確保に努めていきたい。</p>
<p>評価委員③</p>	<p>DMVも運行開始から数年が経ち、より運用においては観光で有効利用すべきである。先日のVチューバーを招いてのモニターツアーは運転手さんのトークが面白かった。今後観光面で活用するなら、貸し切り利用など、そういった付加価値をより強化していくことを望む。</p>
<p>事務局</p>	<p>貸し切りができることによって、旅行エージェントはツアーの造成がし易くなる。こちらからも投げかけていきたい</p> <p>閉会の挨拶</p>